



岡山ユネスコ協会へのメッセージ

岡山市教育委員会教育長 山脇 健



岡山ユネスコ協会の皆様には、10月のESD推進のための公民館-CLC会議や、11月のESDに関するユネスコ世界会議における各種会合の開催に大きなご支援をいただき、心から感謝いたします。

今回の世界会議は、岡山市の学校での取り組みを国内外へ発信し、評価していただく場ともなりました。子どもたちにとりましては、だれもが地域社会・地球の未来についてよくしたいという思いをもっていることを実感し、次につながる視点を獲得する絶好の機会となりました。一人ひとりが取り組んでいるESDに関する活動を広げ、新たな人のつながりをつくっていくためにも、ユネスコ協会が発行している「ESDパスポート」を活用してESDに関する活動への関心を高めたいと思います。

これからの厳しい時代に生きる力を子どもたちが身につけることができるようにするのがESDであり、これは岡山市が目指す、自分を高め、他と共に生きる「自立する子ども」を育てることでもあります。今後、ユネスコスクールコンソーシアム形成を図り、「持続可能な社会の担い手を育む教育」を一層推進していく所存です。

今年度の新しい取り組み

共催行事・ユネスコサロン・ESDパスポート体験発表会

会長 武 泰稔

共催行事の実施 今年度になって初めて「ESDに関するユネスコ世界会議」に協賛して共催行事を2回実施。

展覧会「ヤスオ國吉 岡山展」 クニヨシパートナーズ（福武財団）と共催ユネスコESDパスポート対象行事

三勲小学校と宇野小学校の子どもたち（延べ児童22名、先生9名）が10月6・8日国吉康雄について研修。10月25日～11月16日の岡山シティミュージアム5F常設展示室での展覧会では一般来場者の方々の作品鑑賞をサポートするボランティア活動をした。

松浦晃一郎第8代ユネスコ事務局長講演会 IPU環太平洋大学と共催

11月6日環太平洋大学フィロソフィアで行われた学生とユネスコ協会会員対象の行事。第8代ユネスコ事務局長の体験をはじめ長年の国際的な仕事を通じて得られたユネスコの精神やグローバル人材に必要な資質などについての豊富で貴重な内容の講演であった。講演後、シンフォニーホールで行われたユネスコ世界会議で世界各国からの参加者に英語で基調講演をされた。

今年2回のユネスコサロンを開く

第1回ユネスコサロン7月5日(土) 「何のために勉強するのか」



参加者 21 名のうち 8 名は現役大学生でした（岡山理科大学 4 名、就実大学 2 名、環太平洋大学 2 名）。若い学生の発言が新鮮でした。学生相互の交流も芽生えました。

第 2 回ユネスコサロン 11 月 16 日（日）「ユネスコについて」「論語について」

日本ユネスコ協会連盟の寺尾明人事務局長をお迎えして、ユネスコについて学習しました。

続いて、論語について朝日塾中・高等学校の戸川秀雄先生から論語のお話があり日頃の生き方について振り返ることができました。出席者は 10 数名でしたが、小人数だけに密度の濃い討議ができ有意義な時間を過ごすことができました。（担当理事：小西真弓、小藪迪則）

行事の予告 会員多数の参加を！

「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」 絵画展

場所：岡山県生涯学習センター

1 月 6 日（火）9:00～12:00 展示作業、13:00～展示オープン

1 月 11 日（日）13:00～表彰式、14:00～撤収作業

ユネスコ ESD パスポート体験発表会

矢掛会場：1 月 31 日（土）10:00～12:30 やかげ町家交流館 50 名を予定

岡山会場：1 月 31 日（土）13:30～16:30 御南西公民館 100 名を予定

<新会員紹介>（ ）内は紹介者

一般会員：下山俊子（小坂田孟）、藤原澄江（片山主計）、都築 勉、曾田佳代子、藤枝茂雄、才士真司（以上、武 泰稔）。**ユース会員**：井上祐壱（才士真司） 以上が平成 26 年 5 月 28 日～12 月 15 日の加入者

「ESD に関するユネスコ世界会議」関連事業への参加・協力の報告

副会長 池田 満之

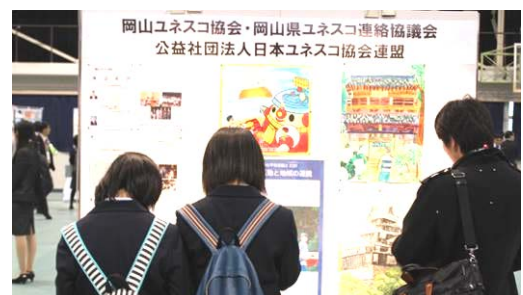


岡山コンベンションセンターでの会議

岡山市にて開催されました、2014 年 10 月 9～12 日の「ESD 推進のための公民館・CLC 会議」、11 月 4～8 日の「ESD に関するユネスコ世界会議」の主要ステークホルダー会議とユネスコスクール全国大会に、開催地の地元ユネスコ協会として岡山ユネスコ協会も参加・協力しました。武会長、藤木副会長、阿部理事、そして池田が実行委員等として関わったほか、田畑副会長、小坂田理事も参加者や展示等のスタッフとして関わりました。展示については、日本ユネスコ協会連盟と岡山県ユネスコ連絡協議会との 3 者での合同展示とし、その実務を岡山ユネスコ協会が受け持ちました。会場

となった岡山コンベンションセンターと岡山大学の両方に展示ブースを設営しましたが、海外のユネスコ機関の展示物も取り扱い、ユネスコグループ全体の展示対応をしました。岡山ユネスコ協会は、「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展の入選作品を展示し、民間ユネスコ運動を広くアピールしました。

今回のユネスコ世界会議ですが、岡山では公民館を拠点にした「岡山モデル」が提唱され、インフォーマル教育の重要性が強調されたほか、高校生などの若い人達に光が多く当てられていました。また、ユネスコスクール全国大会で、岡山ユネスコ協会も教育活動支援をしている岡山市立京山中学校が第 5 回 ESD 大賞の最高賞である文部科学大臣賞を受賞するなど、岡山での ESD に関する教育活動がフォーマルからインフォーマルまで幅広く脚光を浴びた会議でした。岡山での一連の会議に続き、名古屋で総括会議などが行われました。こちらにも阿部理事や池田が公式参加者として出席しましたが、名古屋でも岡山での会議が高く評価を受けました。中でも、岡山での様々な「おもてなし」がとても好評で、国際コンベンション都市としての岡山を強くアピールできたように思います。ユネスコ精神である相互理解と相互協力による平和な社会づくり、その 1 つの形を岡山では「おもてなし」を通して世界に示せたように思います。岡山ユネスコ協会としては、民間ユネスコ運動を通して、今後も積極的に ESD を推進していきたいと思



岡山大学での展示ブース

受けました。中でも、岡山での様々な「おもてなし」がとても好評で、国際コンベンション都市としての岡山を強くアピールできたように思います。ユネスコ精神である相互理解と相互協力による平和な社会づくり、その 1 つの形を岡山では「おもてなし」を通して世界に示せたように思います。岡山ユネスコ協会としては、民間ユネスコ運動を通して、今後も積極的に ESD を推進していきたいと思

第70回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床 2014

参加報告

副会長 田畑 美和子

知床に行ってきました。まずは夕陽の美しさと、早朝3時40分の日の出に白夜を感じる。今大会のメインは、4 専門家の「世界遺産登録への道」、「森林再生への道」、「温暖化の海水への影響」、「持続可能な自然の利用モデルを目指して」によるパネルディスカッション。そして元・現町長とユネスコスクール関係の高校生の提言が加わる。



私は、いつか知床に行ってみたくと、開拓跡地買戻しの「しれとこ 100 m²運動」に賛同した記憶がある。これを起点に“知床財団”が組織され、民間・行政・専門家の集う大きな運動となり紆余曲折を経ながら実を結ぶ。日本で唯一の国立公園管理の実働部隊（知床財団）と科学委員会を核に、2005年に世界遺産登録。その価値は、従来の“名所景観廻りの観光地”としてではなく、「流水を起点とした世界唯一の海洋生態系」との遭遇にある！ という。大会後のエクスカージョンに参加して、それを実感してきた。知床五湖でネイチャーガイドと高架木道の散策、雪が残り霧と雲海の中の知床峠越え、名物船長さんの解説付きでネイチャークルーズ。シャチは残念ながら、イシイルカ、ミンククジラ、オジロワシに遭遇。水平線に群れるハシボソミズナギドリの大群は感動のものであった。漁港での漁師さんによる解説・仲買人さんの競り見学・昆布倉庫での解説等、役場・博物館・漁協・ボランティアスタッフの皆さんの誠意ある対応に感謝。団体ツアーの温泉観光地から、個人対象の滞在体験型エコツーリズムへの道を歩みつつある中、若いスタッフが多く、着実に自然保護&保全の精神が受け継がれているのを感じた。

第15回「平和の鐘を鳴らそう！」

理事 阿川 信幸

第15回「平和の鐘を鳴らそう！」が8月15日長泉寺で開催されました。当日は30数名の方が参加して、ノートルダム清心女子大2年の池畑友香子さんの司会のもと実施されました。武会長の挨拶の後に、ノートルダム清心女子大2年の林絵里菜さんが、「全ての人の生命を大切にします」・・・と6つの「わたしの平和宣言」を朗読し、参加者全員で読み上げました。そのあとに1945年8月15日に玉音放送が流れた正午に合わせて鐘を鳴らし、平和な世界の実現を祈りました。

またその後に実施された「平和の話」では、15歳の時に岡山空襲で被災された人見辰江さんがご自身の体験を通じて戦争の悲惨さをお話し下さり、これからもみんなが幸せに暮らせるようにと訴えられた。続いて「地球のこども楽団」代表の詩叶純子さんの弾き語りに合わせて全員で合唱して終了しました。

平和の話から司会進行を務めた倉敷芸科大2年の金谷京子さんは「戦争の話聞いて、改めて平和について考える良い機会になった」との事でした。来年は終戦から70年となります。今年以上の方々に参加していただき平和について考えていきたいと思えます。



国際協力レポート 東ティモール共和国へのODAによる開発援助

ユース会員 藤島 誠人



農村のODA開発援助の説明

私は今年度から岡山市ユネスコ協会のユース会員になりました、環太平洋大学4年、藤島誠人と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、現在環太平洋大学で国際ボランティアサークルを仲間と立ち上げて、カンボジアの孤児院の教育支援をしています。この活動がきっかけとなり、国際協力に興味を抱き始め、世界の平和について以前よりも増して考えるようになりました。そして、今回 JICA が主催している国際協力レポーター2014として、9月7日から13日まで東ティモール共和国に視察に行きました。この活動の目的は、日本の国民が税金として納めているODA（政府開発援助）の使い道が納税者に見えにくい現状があるので、私たちが実際に現場の視察を通して日本人にODAの使い道や現場での活動内容を報告するというものです。

現地では、専門家の方や青年海外協力隊などで派遣されている方の活動内容や現状を見ることができました。また、現地の東ティモール人の未来に向かって努力している姿を見ることができました。日本にいたらODAがどのような成果をあげているかがよくわかりませんが、現地での視察を通して人々の生活に役立つ使い方がなされていることがよくわかりました。例えば、東ティモールの首都であるディリの港の改修事業では、一隻しか着岸することができなかったのがODAの援助により三隻着岸することができるようになりました。東ティモールは必要な物資の85%以上を輸入に頼っているため港が不可欠です。もし、日本が港を改修していなかったら現在の東ティモールの人の生活がないといっても過言ではありません。

私は、来年度から小学校の教員になる予定です。子どもたちにとっては、このような開発途上の国々は遠い存在だと思います。しかし、このような国々の現状を知り国際協力について考えてほしいと思っています。海外で活躍されている人と私たちのできる国際協力は異なりますが、直接的なことではなくても、相手のことを考えて小さなことから自分でできることを行動に移すことがとても大切だと、子どもたちに伝えたいです。

私は、来年度から小学校の教員になる予定です。子どもたちにとっては、このような開発途上の国々は遠い存在だと思います。しかし、このような国々の現状を知り国際協力について考えてほしいと思っています。海外で活躍されている人と私たちのできる国際協力は異なりますが、直接的なことではなくても、相手のことを考えて小さなことから自分でできることを行動に移すことがとても大切だと、子どもたちに伝えたいです。

<広報部からのお知らせ> 広報部担当理事 難波

<ホームページのお知らせ>

岡山ユネスコ協会のホームページをアップしています。(下記アドレス参照)

過去の情報も含めて最新の情報を掲載しています。このニュースレターもホームページからご覧いただけます。これからも充実したホームページを作成できるようにしたいと思いますので、皆様からのご連絡、情報もお待ちしています。部会ごとのアドレスも掲載していますので、ご興味のある方は、どしどしメールをください。新しく会長も決まり、岡山ユネスコ協会が盛り上がるよう理事一同も企画・運営していきますので、これからは岡山ユネスコ協会にご支援いただきますようお願い申し上げます。



<編集後記> 今年も残りわずかとなりましたが、みなさまいかがお過ごしですか？

会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。ニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。連絡はメールでもかまいません。(難波芳子)



発行 岡山ユネスコ協会

〒 709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺721 IPU・環太平洋大学内

電話086-908-0200 FAX086-908-0280

ホームページアドレス : <http://www.unesco.or.jp/okayama/>

E-mail : okayama@unesco.or.jp